

- | No, | 問 | 題 |
|-----|--|---|
| 1 | 津市内を流れる川は、『すべて伊勢湾』に注いでいる。 | |
| 2 | 津市内を通っている国道の一つに『306号』がある。 | |
| 3 | 津の市域の北部に位置するのは芸濃町石山観音公園、一番南は美杉町若宮八幡宮、西は美杉町の国見山、一番東は『香良洲海岸』である。 | |
| 4 | 津市のシンボルが制定されている。津市の花は「ツツジ」、鳥は「ウグイス」、木は『スギ』である。 | |
| 5 | 全国に約21万か所あるといわれるため池の中から農林水産省が100地区を選んだ「ため池百選」。津市内で選ばれたのは『片田・野田地区』である。 | |
| 6 | 津市を通る江戸時代の街道は、伊勢街道、伊勢本街道、伊勢別街道、伊賀街道、初瀬街道、奈良街道の6つ。伊勢本街道は『一志・白山地区』を通っている。 | |
| 7 | 高田本山専修寺の最寄り駅として現存する3駅のうち、JR（旧国鉄）一身田駅ができたのは『明治44年』である。 | |
| 8 | 芸濃町雲林院の長徳寺には県天然記念物の「龍王桜」がある。室町時代から知られる古い品種で、『普賢象』という種類である。 | |
| 9 | 芸濃町椋本の地名の由来となったムクノキは椋本神社の御神木で、樹齢1500年以上、幹回り8m、高さ18mの巨樹。『国の天然記念物』に指定されている。 | |
| 10 | 霊峰経ヶ峰は休日には県内外の山ガールなどが大勢登っているが、標高は『1000m』を超えている。 | |
| 11 | 長野峠は明治・昭和・平成の3代にわたる3つのトンネルが見られるトンネルの名所。中でも明治のトンネルは『西洋の石造建築と日本の城の石垣技術の和洋折衷』で造られている。 | |
| 12 | 大正4年、三重県下で最も早く整備された津市の片田系上水道は、美里町地内の長野川から取水し、トンネルで片田貯水場に送り込んでいる。取水口は『南長野地区』にある。 | |
| 13 | 美杉町の大洞山は津市を代表する山の一つ。周囲の各地区から望む山容が大きく異なる不思議な山であるが、白山町の人々は『ぞうやま』と呼ぶ。 | |
| 14 | 美杉町の「三多気の桜」の起源は、伝承では理源大師が平安前期の昌泰年間に留まって桜を植えたのが始まりとされる。大半を占める樹種は『ソメイヨシノ』である。 | |
| 15 | 国道165号から青山高原ドライブコースに入ると最初の休憩所に「二等三角点」が具えられている。刻まれている標高は『909m』である。 | |
| 16 | 奈良時代に始まる修験道の開祖・役小角（えんのおづぬ）が開いたと言われる矢頭山は5つの峰からなっている。その最高峰の標高は『819m』である。 | |
| 17 | 初瀬街道と多気街道が落ち合う一志町の田尻宿は交通の要衝で、八太・六軒へ出る道と『久居・津に通じる道』の分岐点である。 | |

- 18 香良洲公園の松林は、明治の「みえ案内記」に「白砂青松・風光絶佳にして〇〇にゆずらず伊勢湾風景第一の地」と絶賛されている。〇〇とは『三保』である。
- 19 高茶屋・雲出地区の水不足解消に藤堂高次の命により雲出井用水を造った西島八兵衛を祀る水分神社は、『みくまり』神社と読む。
- 20 江戸川乱歩（本名・平井太郎）が建てた平井家先祖代々の墓は乙部の『上宮寺』にある。
- 21 「金魚のひるね」などで知られる作曲家・弘田龍太郎は10歳から多感な青春前期を津で送っているが、『三重高農校歌』も彼が作曲している。
- 22 観海流の開祖は忍藩浪人・宮発太郎信徳。初代家元は『山田松斎』である。
- 23 安濃町安濃の松原寺と一身田の厚源寺にある南無仏太子立像は、共に『県文化財』に指定されている。
- 24 我が国洋画史に名を残す藤島武二。明治26年から3年間、津中学校で教鞭をとり、そのころ描いた「桜の人(桜狩下絵)」のモデルは料亭『聴潮館』の娘という。
- 25 藤堂家の家紋は蔦。校名を藩校有造館の中にあつた学寮から採り、校章に蔦の葉をあしらっている小学校は『育生小学校』である。
- 26 県内屈指の大規模遺跡「納所遺跡」からは、大量の土器のほか琴や櫛などの木製品にまじり『木簡』も出土している。
- 27 藤堂家の旗印や、ゆるキャラ「シロモチくん」の元となったと言われる浪人時代の藤堂高虎の餅屋無銭飲食事件。餅屋の所在地は『豊橋市』である。
- 28 藤堂高虎は幾つもの兜を持っていたが、最も有名なのが唐冠形（とうかんなり）の兜。自身の発注作ではなく、『信長』からもらったものという。
- 29 藤堂高虎は津城の大修築にあたり内堀を広くした。最も広い南内堀の幅は『約80m』である。
- 30 津観音の旧仁王門は3代将軍家光の疱瘡平癒を祈願して藤堂高虎が寄進したもの。現代の名工の手により再建された現在の山門のモデルは『南禅寺』の山門である。
- 31 京都遊学を終え帰郷した谷川士清は、医者としての父の仕事を継ぐと同時に家塾を開いた。その家塾の名は『洞津谷川塾』である。
- 32 本居宣長は谷川士清の「日本書紀通証」付録の動詞活用図表「和語通音」を見て感激し、以来、二人の交友が始まり、士清は『勾玉考』の草稿を見せた。
- 33 幕末、英語とオランダ語にも翻訳された谷川士清の「和（倭）訓栞」に収録された語彙数は『約21,000語』である。
- 34 谷川士清の肖像画（県指定文化財）は、士清が亡くなる2年ほど前に弟子が描いたもの。この弟子とは『蓬萊尚賢』である。
- 35 江戸期、京都で活躍した儒学者、猪飼敬所は晩年、津藩に迎えられ、85歳で没するまで藩校などで経書を講じた。遺言により葬られたのは『竜津寺』である。

- 36 伊勢別街道沿いの窪田常夜灯は、文化14年建立で、高さは三重県下最大級である。千人余りの人達が寄進したものだが、その中心は『近江商人』である。
- 37 昭和18年の映画「無法松の一生」で主人公・富島松五郎役の阪東妻三郎が人力車を引いて走るシーンの撮影場所は高田本山専修寺『山門前の寺町通り』である。
- 38 一身田寺内町を囲っている環濠の幅は、改修により殆どが古図より狭くなっているが、現在でも古図の3間幅を残しているのは『高田高校敷地内』である。
- 39 毎年5月にお田植え祭りが行われる一身田寺内町の一御田神社の旧社名は『梵天宮』である。
- 40 伊勢湾海洋スポーツセンターの入口前の緑地帯に「遠花火海の彼方にふと消えぬ」という大きな句碑がある。これは津出身の俳人『長谷川素逝』の名句である。
- 41 四天王寺には織田信長の生母「花屋寿栄禅尼」の墓がある。最晩年を津で暮らし、ここに葬られたが、彼女は歴史上、『土田御前』と呼ばれている。
- 42 橋南地区の市杵島姫神社には、名工・阿保氏作による青銅の市指定文化財の『鈴』がある。
- 43 津観音の手水屋にある江戸時代の水盤に、現在付けられている龍頭は全身を現す珍しいものだが、作者は人間国宝の山本真治。彼は水盤を作った『辻家』の子孫である。
- 44 乙部地区の西来寺には、伊勢商人の江戸進出に尽力し、同寺に奥殿（戦災で焼失）や大曼荼羅を寄進した家康の側室・於奈津の方の『木像』がある。
- 45 橋南地区の閻魔堂こと真教寺には、県指定文化財の十一面観音立像も祀られ、この作者の仏像としては像高最大級として知られる。この作者とは『円空』である。
- 46 結城神社に力感あふれるブロンズの狛犬がある。作者は「長崎平和祈念像」で知られる『北村西望』である。
- 47 河芸町千里ヶ丘で、昭和33年に日本最初の銭貨「和同開珎」の銀貨が発見されたが、その銀貨は現在『奈良国立博物館』に保管されている。
- 48 浅井三姉妹の茶々・初・江が幼少期、当時伊勢上野城主であった織田信包に「暫時預けられた」とある文献は『総見記（織田軍記）』である。
- 49 伊勢上野城は織田信包の後、分部光嘉、光信が城主であったが、分部氏は元和5年に近江国大溝に転封になり、伊勢上野城は『廃城』となった。
- 50 河芸町上野地区の円光寺は、元々は後光厳天皇の祈願所で室町幕府より寄進を受けた官寺。元亀年間に分部光嘉が上野に移し菩提寺とした。元の所在地は『大里窪田』である。
- 51 芸濃町石山観音公園にある大きな3体の磨崖仏は県の文化財に指定されており、最大の磨崖仏は鎌倉時代に彫られた『阿弥陀如来立像』である。
- 52 芸濃町林地区、普門寺には天正の兵火の際に住民達が持ち出したという5体の大きな仏像が残っているが、一番大きなものは『阿弥陀如来坐像』である。

- 53 伊勢別街道・椋本宿の東西の入口には疫疾治除を願った自然石の碑が各々1基建っている。碑に刻まれた大きな文字は『村内安全』である。
- 54 芸濃町雲林院の美濃夜神社は、水源の神様として祀られ、古くは溝淵大明神と言われた。ここに残る古い棟札32枚は『県文化財』に指定されている。
- 55 安濃町連部に津藩が建てた墓があり、津公園に顕彰碑のある「孝女登勢」。遠乗りの途中、わざわざ彼女の家を訪ねた藩主は『藤堂高允』である。
- 56 安濃町野口出身で学習院教授となった紀平正美は、『カント哲学』研究の先駆者である。
- 57 美里町五百野地区には、景行天皇の娘・五百野皇女久須姫命が斎王の任を終えて都へ戻る途中この地で亡くなったという伝承がある。彼女は『初めて群行をした斎王』と言われる。
- 58 美里町桂畑の西方にある山を、地元の人々は昔から「しろんだい（城の台）」と呼んでいる。ここは長野氏の城跡で、国指定史跡。長野氏城が存続したのは『約280年間』である。
- 59 JR名松線の終着駅である伊勢奥津駅には、全国でも3基しか現存していないという珍しい『SL給水塔』が残っている。
- 60 伊勢本街道には多くの難所があった。中でも一番の難所は道が険しい上に山賊が出たという『暗峠』である。
- 61 国名勝及び史跡である「北畠氏館跡庭園」は、近江の旧秀隣寺庭園、越前朝倉庭園と共に戦国の三名園といわれているが、この庭園の池は『十字池』という。
- 62 昭和20年6月26日、B29に戦闘機・飛燕が体当たり攻撃し、飛燕が火をふきながら墜落したのは白山町の『惣谷池』付近である。
- 63 白山町八ツ山地区の常福寺にある国の重要文化財・木造千手観音立像は「別所の観音さん」と親しまれているが、手の数は『982本』である。
- 64 近鉄榊原温泉口駅近くのJA三重中央みやま支店の裏手に歴史的人物の名を刻んだ高さ1mの墓がある。この人物とは『紀貫之』である。
- 65 一志町波瀬地区には「波瀬一監記」に記された平家伝説がある。平維盛の嫡男・六代が波瀬に来て名を山羽大監弘平家盛と改め、建仁元年に『上出城』を築いたという。
- 66 天台真盛宗開祖・真盛上人は一志町大仰地区で生まれ、幼名を『真珠丸』と叫んだ。
- 67 一志町井関地区の延命寺にある石棺は、井関石の内部をくり抜いた棺身に冢形の蓋を組み合わせたもので、ほぼ完全な形で残っており『市指定文化財』である。
- 68 尾張徳川家2代藩主・徳川光友の三男が一志町小山地区の寺で誕生したことから、元禄5年、光友から本堂が寄進され、葵の紋の使用が許された。この寺は『成福寺』である。
- 69 久居藩祖藤堂高通は野辺野の地に陣屋と城下町を築き、寛文10年この地を久居と改称した。込められた意味は『この地に永久に居住する』である。

- 70 江戸時代、「久居城下に過ぎたるものは、紺屋・延庵・子午の鐘」といわれた。延庵とは『町医者』の名前である。
- 71 久居藩主の菩提寺・玉せん寺には藩主の木像が2体納められている。1体は高通、もう1体は『高兌』である。
- 72 久居桃園地区の新家町・光明寺、牧町・宝樹寺、川方町・栄松寺の3か寺には、建立時期が同じ正和3年8月のわずかに日付のみが異なる石仏がある。この石仏は『地藏菩薩』である。
- 73 久居森町出身の西田半峰は洋画家にして我が国最初の洋画商で、我が国『エッチング（銅版画）の父』とも讃えられる。
- 74 榊原温泉の歴史は古く、平安時代の清少納言「枕草子」にも、有馬の湯、玉造の湯と共に『榊の湯』と紹介されている。
- 75 榊原地区は全国の「榊原さん」のふるさと。この地から三河に渡り、家康に仕えて各地に広がったが、地元に残った者もあり、地元榊原氏の菩提寺は『海泉寺』である。
- 76 香良洲神社の祭神は、伊勢神宮内宮の天照大神の妹神『菊理媛』である。
- 77 香良洲の予科練の人たちは実戦部隊への配属が決まった時、地元でお世話になった人のもとへ別れの挨拶に訪れたという。それは『食堂のおばちゃん』である。
- 78 昭和54年1月15日、香良洲町にある若桜霊園慰霊のためにアメリカ人パイロットが操縦して飛来したのは名機『ゼロ戦』である。
- 79 白塚町八雲神社の「やぶねり」は、コモで巻いた竹の束を男衆達が担ぎ激しく町内を練り歩く。竹の束に仮託された生き物は『竜』である。
- 80 津まつり「安濃津よさこい」で2010年・2011年と大賞を連覇した女性チームは『極津』である。
- 81 「津音頭」は昭和39年、津市市制75周年記念に創作された。作詞作曲は米山正男、デュエットで歌った歌手は、北島三郎と『都はるみ』である。
- 82 一身田中野に伝わる獅子舞は古式を残していることから市無形文化財に指定されている。舞われるのは『4年に1度』である。
- 83 「阿漕平治」の伝説。平治が母親の病を治すために禁漁区で獲った魚は『オコゼ』である。
- 84 河芸町一色地区の津市指定無形民俗文化財である「ざるやぶり」神事で、現在使われている丹波ザルの直径は『1m』である。
- 85 河芸町北黒田地区で、毎年2月に行われる津市指定無形民俗文化財の「世だめし粥占い」は、『500年前』から続いている。
- 86 芸濃町にある「小野平の滝」は落差約6mで不動明王が祀られている。昔、きこりの子どもが滝壺で水浴びをしたところ病気が治ったと伝える。その病気は『皮膚病』である。

- 87 安濃町草生に伝わる八百比丘尼伝説では、美しい娘が無尽講であるものを食べ不老長寿になったという。食べたものは『人魚の肉』である。
- 88 美里町の「南長野イルミネーション」を主催する南長野十二志会が、冬の風物詩としても一つ手づくりしている大きなものは『クリスマスツリー』である。
- 89 美杉町石名原地区の「瀬之原の常夜燈」の竿に彫ってある「太一」文字の拓本は、第62回式年遷宮のお木曳などに使用された法被の『背文字』に採用されている。
- 90 美杉町下之川地区、仲山神社の奇祭「牛蒡祭」の第3幕は魚のボラを料る「マナイタ行事」である。金箸と包丁を使い、魚体に手をふれず『7つ』に切りさばく。
- 91 白山町の倭白山比咩神社が平成18年から3年4か月をかけて行った修復事業に合わせ、51年ぶりに復活させたのは『雅楽・里神楽』である。
- 92 一志町庄村地区に「庄村の氏神様は、〇〇の木がお嫌いだから植えてはいけない」という不思議な伝説が語り継がれていて、今も庄村辺りにその木はない。〇〇とは『松』である。
- 93 昔の人はT字路の突き当たりの家は災いが入りやすいと考えていた。久居の町屋の軒下に魔除けとして祀られているのは『毘沙門天』である。
- 94 榊原の射山神社境内で行われる湯立神事では、献湯された温泉にあるものを加えて沸騰させる。あるものとは『お神酒』である。
- 95 伊勢神宮と同じように20年に一度、お木曳きや遷座の神事を行っている津市内の神社は『香良洲神社』である。
- 96 香良洲町には、香良媛と大伴文守の恋物語「こまつなぎの松」が語り継がれている。この物語は『飛鳥時代』の話である。
- 97 おやつカンパニーの本社は『一志町田尻』にある。
- 98 井村屋の津工場は、昭和23年に操業開始されたが、当時製造していた菓子は『ようかん』である。
- 99 おぼろ染めを発明し津市の地場産業おぼろタオルの創始者となった森田庄三郎は元々は画家。彼が描いた絵馬が『逆川神社』にある。
- 100 伊勢路に春の訪れ告げる小女子漁。小女子は津市の大事な海産物だが、小女子は夏場は『海底の泥の中』で過ごしている。
- 101 一身田町の老舗「下津醤油」は、ユニークな名前の新商品が幾つもあって評判だが、その中の一つに『魚が喜ぶこれ一本』がある。
- 102 現存する唯一の伊勢木綿の織元・臼井織布（一身田大古曾）が伊勢木綿の登録商標に使っている図柄は『二見の夫婦岩の日の出』である。
- 103 最近、芸濃町林地区の竹尾茶業と、疾病予防や長寿健康効果が期待できる「有機茶パウダー」を共同開発した研究機関は『名古屋大学』である。
- 104 美里町足坂地区のグリーンロード沿いに産直施設がある。地元農家が収穫した新鮮な野菜、生花などを安価で販売し多くの人たちが訪れる。施設名は『農家の店』である。

- 105 伊勢本街道奥津宿の「のれん街」は、その家のおかみさんたちが村おこしの一環として平成12年に始めた。のれんは各家が『代々伝える秘蔵品』である。
- 106 白山町中ノ村地区の国道165号沿いに地域で生産する農産物を中心とした直売所が地域住民により運営されている。その名称は『ぬくいの郷』である。
- 107 やすらぎの湯「とことめの里一志」は榊原温泉と同じ泉質で、源泉かけ流しのため人気を集めているが、施設名に引用された和歌を収録しているのは『古今和歌集』である。
- 108 久居の福祉と環境が融合した花園「かざはやの里」では、障害者たちが3種類の花の名所にと丹精を込めている。その花は梅、あじさいと『藤』である。
- 109 ツヨインジャークラブが津の鰻屋を盛り上げようと作成、配布している各店紹介の地図入りパンフレットは『うまっぷ』という。
- 110 一志米を原料にした一志町の特産品で、冬場の鍋料理によく使われる東北地方のきりたんぽに似た商品の名は『伝兵衛』である。
- 111 レストラン東洋軒の名物メニュー「ブラックカレー」をプロデュースしたのは『川喜田半泥子』である。
- 112 谷川士清旧宅近くの菓子店・大岡屋が江戸時代に食べられていたものを復元した人気の銘菓は『士清まんじゅう』である。
- 113 TV番組「ケンミンSHOW」でも紹介された「けいらん」は、津藩家老・中川蔵人の日記にも記載され、江戸時代から続いていることがわかる津の伝統の『まんじゅう』である。
- 114 酒まんじゅうで知られる一身田寺内町の和菓子屋「つるや」の人気の新商品は、一身田のキャラクター「しん坊くん」がデザインされた『どら焼き』である。
- 115 「芸濃ずいき」は芸濃地区の特産物で酢のものや和えものに使われる。主に京都の料亭に出荷されているが、錫杖湖水荘レストランの「錫杖うどん」や『津ぎょうぎ』にも使われている。
- 116 美里町では美里たけのこの水煮、美里梅ジャムなどの農産加工品を製造しているが、近年、地元の学校給食に使われている美里産の米と豆を原料とした加工品は『美里みそ』である。
- 117 美杉町多気地区で、鶯豆と美味しい水を使い昔ながらの製法により名物の羊羹を作っている店は『鶴屋』である。
- 118 白山町南家城地区にある霊泉は「この水でご飯を炊いたり、コーヒーをいれると美味しい」と水を求める人が後を絶たない。霊泉の名称は『こぶ湯』という。
- 119 ナマコ壁の米蔵が国の登録有形文化財に指定されている久居の蔵元・油正。地酒銘柄の「初日」に使っている水は雲出川の水、酒米は『伊賀米』である。
- 120 香良洲町で有名な物と言えは潮干狩りと梨、そして「ホッカイヤ」の『みたらし団子』である。